

豊中市

都市型農園

『豊中あぐり』で 地域デビュー

「野菜づくりを通じて、仲間づくりやアクティブシニア(特に男性)の社会参加のきっかけにしてもらえたら」そんな想いをこめて、今年4月、都市型農園「豊中あぐり」(アグリカルチャーII農業)は誕生しました。豊中市社協の活動に関心をもたれた住民から宅地の無償貸与の話があり、従来から社協として企画していた高齢者等の社会参加の場として、宅地を農地へ展開し利用が実現。

①都市型農園の運営・直売②ユニバーサルファーム(障がい

者や認知症の方なども楽しめる農園の運営)③地域福祉活動の担い手の養成等をめざしています。

また、5月からは60歳以上の男性を対象に、「豊中あぐり塾」を開講。週に1回、農業とボランティアをテーマに学びの場を設けています。

この日は、登録ボランティアグループ「みちしるべ」の指導により、車いす操作や目の不自由な方への介助手引きの仕方を体験。今後の農園運営や地域づくりへの参画が期待されます。

研修後は豊中あぐりの会員メンバーで、4月に植えたきゅうりやナスの手入れのため農園へ。収穫に向けて大きく育てるコツ



▲収穫したきゅうり
支柱のたて方や野菜の間引き方を教わりました。



を学びながら、必要な手入れを行いました。

ある参加者は「メンバーの多くはこれまで地域活動に参加したことがなく、農業も初心者。これからお互いを知り合い、関係を深めることができれば、農園ももっともっと盛りあがる。街中で声をかけあえる関係を築いていきたい」と笑顔で話します。

人と人がつながり、ふれあい、認め合い、支え合う共有空間として。野菜とともに地域福祉の担い手が育つ拠点として。豊中あぐりのこれからの展開と広がりに、大きな期待が寄せられています。

連載 Vol.7

つながりで拓く地域福祉実践

～「子ども食堂」の取り組み：松原市～

6人に1人の子どもが貧困状態と言われる中、子どもたちをいかに支えるかが課題となっています。松原市ではNPO法人 やんちゃまファミリー with (以下 やんちゃま)を中心に、社協・行政等と連携して展開している子ども食堂の取り組みから、大切なポイントを学びます。

子ども食堂は月1回、18～20時に開催していて、毎回5～10人の子どものたちが訪れ、みんな夕ごはんを食べたり、遊んだりしています。田崎さんは「当初はあまり話さなかった子どもも今では少しずつ話してくれるようになり、ほっとできる場になっていくようです」と話します。また、一法人だけではなく、多様な団体と連携をしながら、地域全体で見守る体制を作るこ

子どもの貧困・孤立を防ぐには、多様な団体が協力し、それぞれができることを持ち寄って、子どもたちを温かく見守る地域づくりを進めることが大切です。



子どもたちの中には「次は何作るの?」と質問してくる子どももいるようです。

やんちゃまは20年以上、「孤立しないで皆で子育てしよう」を合言葉に、子どもやその家族を支援してきました。理事長の田崎さんは日頃の活動を通じて、子どもを取り巻く環境が年々厳しいものになっていると実感していたところ、社協からボランティア連絡会(以下 ボラ連)に「生活困窮者自立支援事業において何か一緒にできないか」と話がありました。同じ頃に商工会女性部の栗崎部長からも「子ども食堂をしてみない?」との声がかかり、田崎さんは「ぜひみんなで一緒にやろう!」と提案。その後、行政や社協とともに話し合いを重ね、昨年12月からスタートしました。

とが必要だと言います。特に学校との連携を通して、しんどさや寂しさを感じて孤立している子どもがいらないか情報収集を積極的に行きたいと今後の意気込みも話してくれました。社協としては運営面に対する助言や、善意銀行を活用したサポート等を行っています。今後はボラ連や民生委員、地区福祉委員会などに広く周知を行いながら、さらに理解者や協力者を増やしていきたいとのこと

つながる
ひろがる

地域福祉を 支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い(きっかけ)」や「活動のひろがり」を紹介します。



豊中市社協 会長
永井 敏輝さん

今回は、2面「豊中めぐり」の取材に協力いただいた、豊中市社協の永井敏輝会長をご紹介します。

◎地域福祉に関わりはじめたきっかけはなんですか？

豊中で生まれ育ち、40年前に社協ができた当時は、地元の子どもたちにはサッカーを教えるなどの活動をしていました。その際、「地域をよく知る永井さんに福祉委員として活動を手伝ってほしい」と声をかけてもらったことがきっかけです。その頃から「子ども」「高齢者」「健康」などテーマを決めて、歩こう会や餅つきなどの行事を企画するようになりました。みんなが参加で

きる機会をつくったり、つながる橋渡しをすることが好きでした。

◎普段から心がけていることはありますか？

人との出
会いを大切
にすること
を常に心が
けています。
人と人との



つながり、地域とのつながりを大事にしていけば、新しい出会いがどんどん生まれ、大きな地域の支えあいのチカラに育っていくと思っています。

◎豊中めぐりのこれからの展開イメージをお聞かせください。

今は仲間づくりやアクティブシニアの社会参加のきっかけづくりを中心に活動を進めています。この場を通じて、多様な主

体がつながり混ざりあって一緒にまちづくりを携わっていき、そんな誰もが活躍できるまちづくりの「拠点」となっていくことを期待しています。

被災地支援 ボランティアバスを運行

府社協と大阪市社協、堺市社協は、6月5日～8日、現地1泊、往復車中2泊の行程で、熊本市へボランティアバスを運行しました。

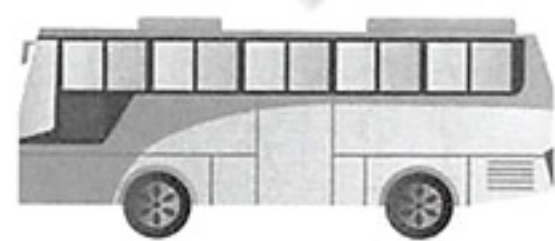
GW以降、ボランティア

が不足気味の平日の活動を企画。ホームページ等で参加募集を行ったところ、早々に18歳～80歳のさまざまみな立場の39人から申し込みがあり、災害ボランティアに対する関心の高さがう

かがえます。

現地では数人で一組のグループとなり、主に被災者宅の片付けや家財の運び出し、落ちた瓦の撤去を行いました。

蒸し暑い中での作業に、参加者の疲労もみられましたが、被災者に寄り添う姿勢を大切に、各グループ一丸となって活動しました。



ボランティア活動は初めてという大学生は、高齢者夫婦から泣いて喜ばれたことに感激。「大阪に帰ったら

まだまだボランティアが求められていると友だちに伝えたい」と、笑顔で話しました。

復旧・復興に向けて息の長い支援が求められる中、支援の輪が広がることを期待します。



高齢者グループが経験を活かして大活躍

すずかちゃんに肺移植を!!

100万人に1人とも言われる原因不明の難病、「進行性の肺静脈狭窄に伴う重症の肺高血圧」を患う金田涼香(すずか)ちゃん。一刻も早く肺移植手術を受けられるようにご協力をお願いします。

目標募金額

3億1,000万円

口座名：スズカちゃんヲスクウカイ
三菱東京UFJ銀行 吹田支店 0231667
ゆうちょ銀行 14090-57461661
すずかちゃんを救う会 事務局
TEL / FAX : 06-6875-3222

すずかちゃんを救う会

検索